

第5章 広島の次代に向けた「持続可能な社会の基盤づくり」

【目指す姿】

- 環境学習が充実しており、誰もが環境に配慮した行動をとり、また地域の一員として地域活動やボランティア活動に積極的に参画しています。
- 全ての産業が環境に配慮した事業活動を展開しています。
- 県内ものづくり産業の持つ技術力や地域資源を活用した環境関連技術・製品開発が進展しています。

第1節 エコ活動を実践する人づくり

1 多様な主体の連携・協働による自主的な環境学習の展開

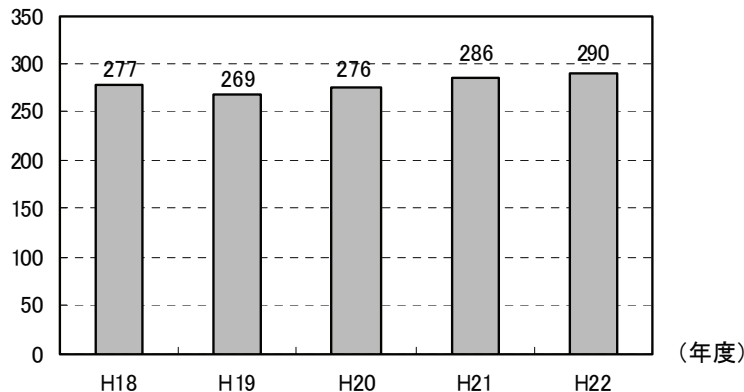
【現状と課題】

社会のあらゆる場において、総合的で実践を伴う環境学習が適切かつ活発になされるよう、学校教育や社会教育での環境学習に関する取組の充実、そのための指導者の育成、拠点整備などを行う必要があります。

平成20年の学習指導要領の改訂でも、「環境教育」を「社会の変化への対応の観点から教科等を横断して改善すべき事項」の一つに掲げています。また、幼児教育の段階から、発達の段階に応じて自然体験活動など体験活動の推進を図り、環境の保全やより良い環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を目指しています。平成21年度公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査によると、社会や理科などでの学習に加え、総合的な学習の時間において、環境をテーマとした学習が約82%の公立小学校と約36%の公立中学校において実施されています。

県では、教職員を対象にした環境教育研修の実施や教材・プログラムの作成支援・提供を行うなど、学校における環境学習の支援を行うとともに、県民の自主的な環境保全活動に対し、適切な指導、助言を行うことができる「環境保全アドバイザー¹」等を育成しています。

図表 5-1-1 環境保全アドバイザー登録者数 (人)



資料：県環境政策課

¹ 環境保全アドバイザー：地域で行われる環境学習や環境保全活動について、助言・指導を行うことができる人材。県が実施または認定する養成講座を修了した者や地球温暖化防止活動推進員のうち、希望者をアドバイザーとして登録し、地域での活動を促している。（※県の独自制度で平成6年度から実施）

環境保全行動に対する県民の意識は年々高まっているものの、実際の行動にはまだ十分に結びついていない状況にあり、日常における県民の自主的かつ積極的な取組を促進する必要があります。

県では、県民の自主的な環境保全活動を促進し参加機会の拡大を図るため、各地で行われている取組に関する情報提供を行うとともに、地域で緑化活動や美化活動などを行っている団体等の活動支援、「環境保全アドバイザー」の派遣などによる環境保全活動の拡大に向けた支援を行っていますが、今後、一層の充実を図る必要があります。

産業技術や保健・環境に関する総合的な試験研究に取り組むとともに、研究成果の技術移転を推進する目的で設立した総合技術研究所や、県立広島大学において、多様な環境問題についての研究を行っています。

今後も、複雑化・多様化する環境問題に適切に対応した調査・研究を推進する必要があります。

【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H22)	目標値	目標 年度
こどもエコクラブメンバー数	人	972	941	増加を図る	H27
県が認証したNPO法人数(環境保全関係)	団体	53	59	86	
せとうち海援隊認定団体数		33	33	増加を図る	

【取組状況】

(1) 環境学習の推進

ア スクールエコ活動「見える化」支援事業 [環境政策課] 【新規】

子どもたちに、自分たちの行動と環境との関わりに気づいてもらい、家庭での取組につなげてもらうため、学校において、電力監視装置（省エネナビ）を活用した環境学習のモデルを創出し、各学校での取組内容等について各市町への情報提供や県ホームページ等での情報発信を実施します。

【平成 23 年度内容】各市町と連携し、約 12 校の電力監視装置（省エネナビ）の設置補助や省エネ学習の支援を実施し、その取組内容等について情報発信を実施。

イ 海洋環境こどもクルーズの実施 [環境政策課]

海から環境を見つめ直してもらうため、第六管区海上保安本部、中国地方整備局と共催で、小学生を対象に巡視船への体験乗船や水の分析等の環境学習を実施します。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】 広島市の自然に関する環境学習、パックテストを利用した水質検査を実施するとともに、巡視船で広島港内をクルーズし、海水の透明度測定、海面清掃船によるごみ収集作業の見学を実施。（平成 22 年度は中止）

ウ 環境講演会の開催 [環境政策課]

ひろしま地球環境フォーラム等との共催により、地球環境等に関する講演会を開催します。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】 環境問題やエネルギー等をテーマとした講演会を開催。

エ ひろしま環境賞 [環境政策課]

環境保全活動への意欲を高めるため、地域において先覚的・独創的な環境保全活動に積極的に取り組み、環境にやさしい地域づくりに顕著な功績のあった個人・団体に対し、その功績を称えて表彰します。

【平成 22 年度実績】〈受賞者〉くれ環境市民の会（呉市）

森嶋 彰（広島市）

ヒョウモンモドキ保護の会（世羅町）

【平成 23 年度内容】〈受賞者〉井藤 文男（世羅町）

賀茂川の源流を守るネットワークにか（竹原市）

オ こどもエコクラブの支援 [環境政策課]

幼児から高校生までのこどもが自主的に環境保全活動を行う「こどもエコクラブ」について、地域環境に関する具体的な取組・活動が展開できるよう、市町の協力を得て、支援情報を提供していきます。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】22 年度は、42 団体のこどもエコクラブのメンバー941 人による活動を実施。23 年度も、こどもエコクラブへの適切な情報提供に努めるなど、活動の活発化を推進。

カ 県立大学での教育 [学事課]

県立広島大学で環境教育に関する科目をカリキュラムに取り入れることにより、環境問題に関する学生の意識を醸成します。

【平成 22 年度実績】県立広島大学で、全学共通教育科目として「バイオと環境」、「食料とエコロジー」を開講するとともに、生命環境学部では専門教育科目として「環境科学概論」、「環境フィールドワーク実習」等の環境に関する科目を開講。

【平成 23 年度内容】引き続き、環境に関する授業科目を開講し、環境に対する意識の高い人材を育成するとともに、環境関連の研究を実施するほか、生命環境学部では「フィールド科学」、「環境法」、「環境リスク学」等の科目を通じて、環境科学技術者・研究者を育成。

キ 少年少女水産教室の開催支援 [水産課]

小学校高学年を中心に、稚魚の放流など栽培漁業の体験学習を実施し、漁業への理解を深めるとともに、資源の大切さを啓発します。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】市町、漁協等が開催する水産教室を支援。（平成 22 年度実績：参加者 542 人、大竹市阿多田小学校外で計 18 回実施。平成 23 年度：計 15 回予定。）

ク グリーン・ツーリズムの推進 [農業担い手支援課]

農山漁村で育まれた自然・景観・文化・歴史等のストックを生かしたグリーン・ツーリズムは、中山間地域の活性化や、都市と農山漁村の相互理解促進の重要な施策として積極的な推進が求められています。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】グリーン・ツーリズムの自発的な取組を支援するため、ホームページを活用し、広く県民に情報を提供。

ケ 緑化研修及び緑化指導相談 [森林保全課]

緑化意識の普及啓発や緑化技術の向上を図るため、県民をはじめボランティア団体や企業の緑化担当者を対象に緑化に必要な知識、技術の研修を行います。また、県内の小学校を対象に「緑の学校」を開校し、学校に出向いて緑化研修や自然体験学習を行います。さらに、みどりについての健康診断や病害虫防除等の緑化相談等も実施します。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】緑化研修や緑の学校等を実施。(平成 22 年度実績：緑化研修 60 回、緑の学校 21 校、緑化相談 652 件。)

コ 指導指針の提示 [指導第一課]

【平成 22 年度実績】平成 21 年度の環境教育に関する指定校の研究成果や先進的な事例を教育委員会のホームページに掲載し、学校の取組を支援。

【平成 23 年度内容】「平成 23・24 年度環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローブ)推進事業」(文部科学省)の指定校である呉市立長迫小学校、江田島市立三高小学校における取組を充実させるとともに、その成果や県内の他の先進事例を教育委員会のホームページに掲載し、学校の取組を支援。

サ 教員研修の推進 [学校経営課・指導第一課]

児童生徒の発達段階に応じ、地域の特色を活かした学校独自の学習プログラムを創造することができるよう、様々な研修機会をとらえ、教員の環境に関する専門的な知識や技能の向上を図ります。

【平成 22 年度実績・平成 23 年度内容】初任者及び 10 年経験者を対象に、環境教育をテーマとした講座を実施。また、全国環境学習フェア(22 年度)、環境教育指導者養成研修、環境教育リーダー研修へ参加。

シ 放課後子ども教室推進事業 [生涯学習課]

安全・安心な子どもの活動拠点を設け、地域住民の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等の取組を推進します。

【平成 22 年度実績】17 市町、159 校区(152 箇所)で実施。

【平成 23 年度内容】放課後児童対策未実施校区の減少(H22 未実施校区数：32 校区)

ス 自然環境教育支援プログラムの開発・提供 [生涯学習課]

福山少年自然の家では、学校等の自然環境教育を支援・推進し、次代を担う子どもたちに、環境の大切さや、かけがえのない生命の営みを学習していく、「森の環境 NEEDS プログラム」を開発・提供します。また、主催事業では、小・中学生を対象とした「自然科学教室」など、自然との触れ合いを通して好奇心や感性を育む、参加体験型の事業を実施します。

【平成 22 年度実績】自然観察プログラム「グリーンアドベンチャー for キッズ」を開発。また、環境教育や冒険教育を柱とした主催事業(年間 8 事業)において、児童生徒 202 人が参加。

【平成 23 年度内容】自然観察プログラムの開発及び活用を行うとともに、教員等を対象とした体験活動指導者研修の実施や学習資料の作成により指導者育成・啓発に努める。

※ 関連事業：県民運動の支援(P10)、ひろしまの森づくり事業(P16)、都市公園事業(P82)、せとうち海援隊支援事業(P84)、環境月間行事の実施(P90)

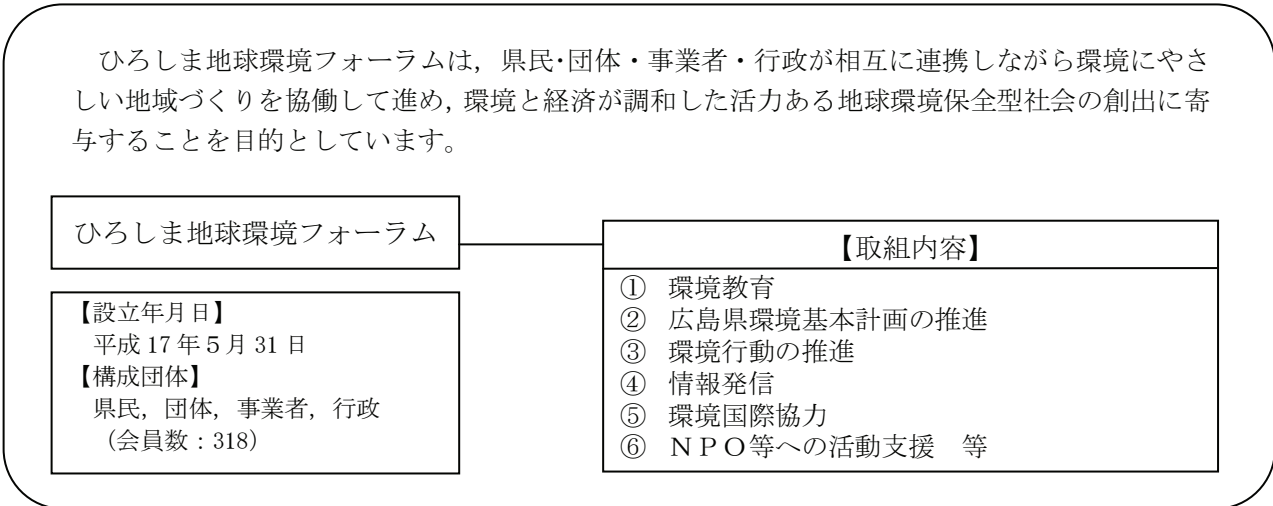
(2) 多様な主体との連携・協働

ア ひろしま地球環境フォーラムの支援 [環境政策課]

県民、団体、事業者、行政の318会員（平成23年5月末）で組織する「ひろしま地球環境フォーラム」が実施する環境講演会等の環境保全事業に対して、県は事務局として支援します。

【平成22年度実績・平成23年度内容】事務局として、各種事業の共同実施、情報提供等の活動を支援。

ひろしま地球環境フォーラムの概要



イ 大学間ネットワーク活用事業 [環境政策課]

大学生と教員が専門的な知識及び行動力を結集し、大学の枠を越えて設立した「大学環境ネットワーク協議会（UE-net：ゆいねっと）」による地域における環境保全活動及び環境学習の取組を推進します。

【平成22年度実績・平成23年度内容】「大学環境ネットワーク協議会（UE-net：ゆいねっと）」による環境イベント等の企画運営や環境学習教材を利用した活動を支援。

ウ ひろしまアダプト²活動支援事業（マイロードシステム・ラブリバー制度）[道路河川管理課]

県の管理する道路・河川において、道路や河川敷の清掃、緑化、除草などを行う団体をマイロード認定団体・ラブリバー認定団体として認定し、表示板の設置や保険への加入のほか、活動費の一部を奨励金として交付するなど、その活動を支援します。

【平成22年度実績】マイロード認定団体は、新たに57（総計370）の団体を認定し、15,089人の参加を得て延長419.6kmの道路清掃等を実施。

ラブリバー認定団体は、新たに47（総計191）団体を認定し、7,452人の参加を得て162.0kmの河川清掃等を実施。

【平成23年度内容】奨励金交付事業を継続し、団体への積極的な支援を行い、アダプト活動の拡大・充実に努める。

エ 河川清掃等業務委託事業 [道路河川管理課]

県が管理する河川において、県民の河川愛護意識の普及・向上を図るとともに、良好な河川環境を保持するため、清掃業務等を市町を通じて住民団体に委託し、清掃活動等を行う住民団体を支援します。

【平成22年度実績・平成23年度内容】清掃活動等を実施。（実施団体：342団体）

エコ活動を
実践
する人
づくり

2 アダプト活動：アダプトが「養子縁組をする」という趣旨から、住民等が主体となって清掃・草刈等を中心に、公共空間をわが子のように面倒をみていく活動

オ 河川清掃「クリーン太田川」[道路河川管理課]

太田川流域の河川において、「クリーン太田川実行委員会」の主催により清掃を実施しており、県も河川管理者として積極的に参加し、清掃活動を行う住民団体等を支援します。

【平成22年度実績・平成23年度内容】約22,000人が参加し、清掃活動を実施。

※ 関連事業：県民運動の支援（P10）、せとうち海援隊支援事業（P84）

2 環境情報の迅速かつ的確な発信

【現状と課題】

県民一人ひとりが、環境への負荷の少ないライフスタイルのあり方や自然の大切さに理解と認識を深めるため、「環境の日」ひろしま大会等を通じた環境保全思想の普及啓発に取り組んできましたが、実際の行動には、まだ十分結びついていない状況にあるため、引き続き、様々な機会を通じた普及啓発を推進する必要があります。

また、県民が自主的に環境に配慮した生活・行動を選択・実行できるよう、環境保全行動等に関するさまざまな情報を各種媒体によって総合的に提供していく必要があります。

【環境の状態等を測る指標】

指標項目（内容）	単位	基準年度値 (H21)	現状値 (H22)	目標値	目標 年度
環境ホームページデータ量	メガバイト	3,000	3,700	増加を図る	H27
環境ホームページアクセス件数	件	83,514	74,344		

【取組状況】

ア 環境月間行事の実施 [環境政策課]

県民の環境保全についての理解・関心や積極的な環境保全活動への意欲を高めるため、6月5日の「環境の日」³及び6月の「環境月間」³を通じて、国、市町、団体等の協力のもと、各種事業を実施します。

≪「環境の日」ひろしま大会≫

【平成22年度実績・平成23年度内容】

区分	開催日時	開催場所	参加者数
平成22年度	平成22年6月6日（日） 10：00～16：00	広島県庁前広場ほか	県民・団体・事業者等 15,000人
平成23年度	平成23年6月5日（日） 10：00～16：00	広島県庁前広場ほか	県民・団体・事業者等 16,000人

³ 環境の日、環境月間：1972年6月、国連人間環境会議がスウェーデンのストックホルムで開催され、「人間環境宣言」が採択された。国連では、この会議を記念して毎年6月5日を「世界環境デー」としている。我が国では、環境基本法において6月5日を「環境の日」と定め、また6月を「環境月間」として、事業者及び国民の環境保全についての関心と理解を深めるとともに、環境保全に関する活動を積極的に行う意欲を高めるための各種事業を実施している。

《環境月間ポスター》

子ども達に、ポスターの作成を通して環境への関心と環境保全について理解と認識を深めてもらうため、環境月間ポスターを募集しています。

【平成22年度実績】応募数：小学生の部194点、中学生の部222点、高校生の部64点。

【平成23年度内容】応募数：小学生の部188点、中学生の部331点、高校生の部127点。



小学生の部 特選 「しぜんがすき」
広島市立可部小学校1年 池村 萌々子



中学生の部 特選 「守ろう! みんなの町」
広島市立城山北中学校3年 寺井 遥



高校生の部 特選 「ゴミが地球にあふれてる」
広島県立福山誠之館高等学校2年 濱本 有希

イ 「エコひろしま」の運営 [環境保全課]

県民・事業者等による環境配慮への自主的な取組を促進するため、環境情報サイト「エコひろしま」を通じた環境情報の発信を行います。

【平成22年度実績・平成23年度内容】「エコひろしま」(<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/eco/>)を運営し、迅速で分かりやすい環境情報を発信。

ウ 環境学習教材の充実 [環境政策課]

【平成22年度実績・平成23年度内容】環境学習情報を、「エコひろしま」を活用し、県民が求める情報を迅速かつ的確に提供。また、貸出用の教材を最新版に更新し、県民の利用を促進。